

## のみ社会福祉法人連絡会とのタウンミーティング

日 時 令和7年7月31日（木）17:40～18:45

会 場 辰口福祉会館 交流ホール

参加人数 41人

### 1) 開会

### 2) 市長 市政報告

○主なできごと

- ・2005年に能美市が誕生し、2015年に10周年式典を行った。また、2015年は、北陸新幹線金沢開業の年でもあった。その翌年には、マイナンバーカードがスタートした。
- ・2017年は唯一の姉妹都市であるロシアのシェレホフ市と親善50周年、姉妹都市提携40周年という節目の年であった。
- ・2018年は夏の甲子園が100周年の節目であり、「栄冠は君に輝く」の作詞者「加賀大介」さんのタイムカプセルを掘り起こした。この年の甲子園で松井秀喜さんが始球式を行い、当時の朝日新聞の渡辺社長が開会の挨拶の中で「能美」という言葉を2回言ってくれた。
- ・2019年には令和がスタートし、2020年には「SDGs 未来都市」に選定いただいた。
- ・2020年開催予定の東京オリンピック・パラリンピックは、新型コロナウイルスの影響で1年遅れて無観客開催となり、能美市からはライフル射撃の平田しおり選手が出場された。
- ・2020年から保育園の民営化をスタートした。現在、新たに2つの保育園が工事中で、もう1園についても民営化を進めている。
- ・2023年は、加賀立国・能美誕生から1,200年という節目であった。
- ・2024年には、北陸新幹線の石川県内全線開業を記念し、「折り紙で作った電車の最多展示」としてギネス世界記録に認定された。

#### ○自然災害など

- ・2018年の豪雪や2020年の新型コロナウイルス感染症拡大、2022年8月の豪雨災害、2024年元日の能登半島地震など、これまで様々な自然災害があった。
- ・今年は熊の出没が相次いでいるが、市民の皆さんに被害が出ないように取り組んでいる

#### ○市勢状況

- ・自然動態がマイナスになっている一方、社会動態は新型コロナウイルス感染症の拡大時に大きく減りはしたが、以降はプラスとなっている。自然減を社会増でカバーしており、今人口が少しだけ増えている。
- ・市税が大変堅調で、令和6年度はおそらく過去最高額を記録できるのではないかと。企業誘致や地元産業の好調が大きな要因であり、固定資産税や法人市民税、市民税が増収となっている。
- ・能美市では合計特殊出生率が前年よりもプラス傾向となっている。様々な取り組みが評価されて、数値に表れてきているのではないかと思う。
- ・高齢化率は今26.4%であり、100歳以上の方が現在44人いらっしゃる。
- ・要介護認定者数・要介護認定率の推移について、認定率は少しずつ減少傾向にある。健康寿命を延ばすために医療等の分野でフォローいただいていることが数字に表れてきている。ただ、高齢者数は増えているので、全体の認定者数は増えており、介護給付費は横ばいの状況である。

#### ○市内の状況

- ・TOPPAN(株)が社名を変えて、日本国内で初めて進出を決めたのが、岩内工業団地であった。また、同団地内では、加賀東芝エレクトロニクス(株)が多額の投資を行っている。
- ・加賀産業開発道路・丘陵公園エリアには、観光客が多く訪れており、子育て世代が一日滞在しても飽きない場所として、さらに開発していかなければならないと思っている。
- ・いしかわサイエンスパークについて、新しい企業が進出されることを多くの皆さんから期待されており、何とかしなければという思いで取り組んでいる。
- ・和田山古墳群周辺には、防災センターや警察署、能美ふるさとミュージアムができた。ふるさと歴史の広場もリニューアルし、滑り台を2台に増やしたことで、土日になるとたくさんの方が遊びに来られている。

- ・能美工業団地では、日本ガイシ(株)から第二のマザー工場として能美市を選んでいただき、さらに投資をしていただく計画がある。

- ・能美東西連絡道路沿いに、湯野こども園を新しく造っており、加賀産業開発道路との結末点も整備していきたいと考えている。

- ・市内を新幹線が走るようになった。能美根上駅は新しい駅舎となり、ＪＲからＩＲに変わった。また、駐車場が手狭であったことから、25台増床するとともに、駐車料金の支払いにキャッシュレスを導入した。

- ・能美根上スマートインターチェンジが完成し、周辺にはビジネスホテルや飲食店ができた。想定よりも多い台数の自家用車やトラックが利用しており、ホテルの稼働率も良い。

- ・新しくできた加賀海浜産業道路沿線の福島グランパーク内には、民営化の第１号の福島こども園があるほか、戦略的企業誘致で、女性が多く働く企業もある。今後、総合商業施設もできる予定であり、相乗効果が期待できる。

- ・安全、安心な給食を提供するため、学校給食センターを造った。

- ・障がいをお持ちのお子さんでも安心して使える遊具を設置したインクルーシブパークを２つ造った。

- ・行政の最大の使命は、市民の生命と財産を守ることである。令和４年８月豪雨災害と同量の雨が降っても同じような被害が出ないように河川の体積土砂の撤去や川幅の拡張、調整池の設置等、国、県の支援を受けながら様々な対策を行っている。また、手取川宮竹用水土地改良区と治水協力協定を締結し、大雨警報が出たときには、宮竹用水を排水として使えるようにした。

- ・２０１８年の大雪を受け、除雪機を増やし、山間地域で除雪を外部委託で行う場合、その費用を一部助成する等、雪害対策も行っている。

- ・監視カメラの増設や防災行政無線機械の最新型への取り換えを行っている。また、ＬＩＮＥやメール等で様々な情報をタイムリーにお伝えできる仕組みも作った。

- ・消防、救急機器も充実させ、はしご車や防水・風水害車、高性能カメラドローンのほか、救急車を１台増やし、４台体制とした。

#### ○令和７年度予算編成方針

- ・事業・施策の７本柱が全て移住・定住の促進につながるように取り組んでいる。今年度の予算は２９６億円である。

## ○防災減災対策の強化

・地震被害想定に基づいて、避難所の設置や避難物資の備蓄を行っているが、今年の5月に公表された新想定では、避難者数がこれまでの想定約3倍にあたる約5,600人に変更となった。避難物資の数を増やすだけでなく、能登半島地震の教訓を生かし、内容の見直しを行うとともに、避難所の在り方を検討している。

・本庁舎に防災・機能強化施設の建築を計画している。災害対策本部が支障なく開けるよう地下にある電気設備を上階に移すとともに、大災害時に派遣者等の受入れや避難物資を管理する場所を確保するため、新しい施設を本庁舎の横に建築する。また、くつろぎスペースも作り、市民の皆さんに気軽に来いただける庁舎にしようと考えている。

・市立病院とはまなすの丘が老朽化していることから、能美市立病院の在り方検討委員会を立ち上げ、地域の医療体制をどうしていくか検討を重ねていく。

・地域福祉計画を推進するため、横糸プロジェクトで、3つのテーマ「包括的な相談支援」、「地域づくり」、「要配慮者への防災対策」を設け、取り組んでいる。

・第二次こども計画を策定し、様々な取り組みを加速させている。その一つとして、切れ目のない支援をするため、新しくなったサンテの中に妊産婦、子育て世帯、子どもへ一体的に相談支援を行う、こども相談ステーションを設けた。

・地域共生交流館の新築工事を行い、世代や属性を超えた市民の交流の場として2026年秋のオープンを予定している。

・出産子育て応援事業やヤングケアラー等を訪問する子育て世帯訪問支援事業、病児保育センターのオンライン予約登録が可能となるシステムの導入事業等を行っている。

・通学路の安全を確保するため、福岡小学校エリアでゾーン30、宮竹小学校エリアでゾーン30プラスを導入した。今度は、辰口中央小学校エリアで、道路拡張等を行っている。

・地域での見守りを進めるため、ポイントリストの作成や、障がいをお持ちの方が安全・安心に避難できるよう福祉避難所マニュアルの見直しを行っている。

## ○インクルーシブシティの深化

・中山間地域でライドシェア「ノルノミ」を始めているが、利用者数が思いのほか少ないので、これからどうするか検討している。また、買物代行のスマート物流も行っているが、こちらも利用者数が伸びていない。

・緊急搬送時等に必要な情報を取り出せるよう、電子カルテの共有化にも取り組んでいる。

#### ○知名度・魅力度の向上

- ・20周年記念事業として、なんでも鑑定団やNHKのラジオ体操の収録を行う予定である。
- ・今年には能美電開通100年、廃線45年の節目の年である。能美電跡地の健康ロードを5年かけて整備している。また、のみでん広場にある車両を能美根上駅に移設し、無人のコンビニとして利用したり、駅員室をカフェにしたりする計画である。
- ・人財を確保するため、奨学金返還を支援する制度を作った。県内でもこれだけ手厚い自治体は、能美市しかないので、市民が通う県内全ての高校を回って、宣伝している。
- ・外国人も住みやすい環境を整備するため、国際交流協会にサポートをお願いする事業や、市内の病院等に看護師として新たに就職した方を支援する制度を作った。
- ・寺井高校の志願者を増やすため、寺井高校に学校給食センターの給食を提供している。

#### ○持続可能な行財政改革

- ・財源確保のため、ペーパーレスやフリーアドレス等に取り組んでいる。また、抜本的に経費削減に取り組むため、全ての事業、施策を見直すべく、タスクフォースチームを立ち上げた。30年、50年ずっと続く能美市を目指し、市民ファーストで取り組んでいく。
- ・土曜日、日曜日に申請手続きをしたいというニーズに応えるため、根上サービスセンターを根上総合文化会館の1階に移し、対応する計画である。

### 3) 質疑応答、意見交換

#### 質問・意見 1

【参加者】現在の能美市の人口規模がすごく良いと思っているが、目指す数はどれぐらいなのか。

【市長】背伸びして人口を増やすのではなく、いかに維持していくかということが大事である。健康寿命を延ばし、亡くなる方を少なくするとともに、子どもを産みたいと思う方を増やし、自然増を目指したい。また、能美市から出ていく人を少なくすることも大切で、ふるさと愛の醸成として、市民に能美市のことを好きになってもらい、自慢してもらえよう取り組んでいる。

#### 質問・意見 2

【参加者】能美市は他の自治体に比べて、産業面や教育面で恵まれている。JAISTの学生の話の聞いていると、介護の問題に関心があることがわかった。介護は全国的な問題であり、能美市には、技術を持った人間がいるのでニーズをぶつけて、相乗効果で生産性をあげるモデルを何か一つ組み立てられないか。

【市長】能美市でのデジタルの取り組みが全国的にも注目されており、高く評価いただいている。この背景には、医師会、福祉団体の皆さんとのしっかりとしたネットワークがあることが挙げられる。デジタルの力を使って、さらにいろいろなことに取り組んでいく。

#### 質問・意見 3

【参加者】タブレットで、のみリンクを使ってどういうふうに貢献できるか考えているが、最近の課題として、タブレットやアカウントの数が少ないことが挙げられる。のみリンクの構築・進展には資金も必要なので、よろしくお願いいたします。

【市長】検討する。

#### 質問・意見 4

【参加者】ハザードマップを見ると、能美市には津波が来ないことになっているが、小松市の梯川から津波が来るということはないのか。

【市長】公開しているデジタルハザードマップで、手取川等の大きな川が氾濫した場合や津波が来た場合、どれぐらいの被害が出るかわかるようになっている。能美市内に津波が来た場合、最大で2.5mの高さであり、その高さだと北陸自動車道を越えることはないだろうと言われているが、あくまで予想であり、それ以上の津波が来るかもしれないので、警報が出た場合は避難してほしいと皆さんにお伝えしている。

#### 質問・意見 5

【参加者】人材確保奨学金返還支援補助金がとても魅力的であるが、条件はあるのか。また、看護師人材確保事業はどうか。

【市長】能美市内の企業であることや能美市内に住んでいることなどの条件はある。看護師人材確保事業も同様である。

#### 4) 閉会